

## 平成29年度第1回柏市保健衛生審議会母子保健専門分科会議事録

### 1 日時

平成30年1月30日（火）午後3時から午後5時まで

### 2 開催場所

ウェルネス柏4階大会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員

足立千賀子委員，奥野智禎委員，菊池春樹委員，窪谷潔委員，齋藤世利子委員，佐藤紀子委員，鈴木美岐子委員，橘房子委員，中矢静子委員，卷淵順子委員，柳川幸重委員，和田靖之委員

#### (2) 事務局

- ・ 保健所 山崎所長
- ・ 保健所 谷口次長（総務企画課長兼務）
- ・ 保健所保健予防課 戸来課長
- ・ 保健所地域健康づくり課 根本課長
- ・ こども部子育て支援課 松澤課長
- ・ こども部こども福祉課 高木課長（こども部次長）
- ・ こども部保育運営課 本田専門監[課長代理]
- ・ こども部こども発達センター 黒須所長
- ・ 学校教育部学校保健課 柴山統括リーダー[課長代理]
- ・ （こども福祉課）野戸統括リーダー，酒井主査
- ・ （地域健康づくり課）橋爪，小倉，川崎，宮島，有泉，鳥居，廣田，吉田，山田

### 4 配付資料

- ・ 資料①「柏市母子保健計画の進捗報告について」（柏市母子保健計画指標進捗データ）
- ・ 資料②「基本施策の優先的取組み・政策工程表」（柏市母子保健計画アクションプラン抜粋）
- ・ 資料③「今年度の母子保健の主な取組と成果及び課題と平成30年度の主な取組予定について」
- ・ 追加資料「進捗確認シート」

## 5 議事概要

### (1) 開会

- ・母子保健専門分科会新任期だが、委嘱状送付済みのため、交付は省略とした。
- ・傍聴2名。

### (2) 委員紹介

- ・事務局より、委員名簿を読み上げ、紹介。
- ・委員13名中12名の出席にて、会議の成立を報告。  
(渡邊智子委員は欠席)

### (3) 会長、副会長の選出について

柏市保健所条例施行規則第6条の規定により、会長1名、副会長1名を選出。前回任期に続き、下記のとおり決定。

- ・会長 千葉県立保健医療大学 佐藤紀子委員
- ・副会長 東京慈恵会医科大学附属柏病院 和田靖之委員

### (4) 議題

ア 柏市母子保健計画の進捗報告について（事務局説明）

- ・中間評価に至るまでの全体的な参考評価は提示。
- ・計画の指標推移評価を下記のとおり明記。

◎	目標値を達成している
○	目標値を達成していないが、策定時より改善している→達成率が50%以上
△	策定時より改善傾向及び横ばい状況にある→達成率49%～0%
×	策定時より悪化している
—	判定できない

イ 今年度の母子保健の主な取組と成果及び課題と平成30年度の主な取組予定について（事務局説明）

#### 【今年度の母子保健の主な取組と成果及び課題】

- ①保健師助産師等の専門職の妊婦の全数面談実施
- ②「妊娠子育て相談センター」の開所
  - ・平成29年10月より、全妊婦に保健師助産師等が母子

健康手帳交付時に面談実施。要支援者に対する早期対応，支援台帳作成を実施。包括迅速的な支援の提供を実施。妊娠子育て応援プランを妊婦（家族）と共に作成する。

- ・名刺サイズリーフレットで，地域担当保健師を紹介。
- ・妊娠届出の10～15%がハイリスク妊婦。若年妊婦，メンタル不調，高齢初産，多胎等。早期に把握することで，妊娠期からの必要な支援を実施していく。
- ・「妊娠子育て相談センター」を市内3箇所開所。（柏駅前，ウェルネス柏，沼南支所に各1。）柏駅前は，駅前のファミリー柏ビル（丸井）3階にて，平日は10時から18時半，第2第4土曜日は10時から15時半に開所。市役所母子保健コーナーも，ほぼ同じ機能を備え，母子健康手帳の交付と専門職による面談を実施。

#### ③ 妊娠出産包括支援事業

- ・妊娠出産子育てに関する相談専用ダイヤル（にこにこダイヤルかしわ），妊娠子育てサポート事業を開始。
- ・妊娠期から子育て期までの支援体制について見直し。ハイリスク妊婦対象のグループ支援の充実を図る。
- ・8か月児相談事業の試行実施。乳児期の支援充実を図る。（専門相談対応の機会充実。）

#### ④ 新生児産婦指導の拡充

- ・29年度より全家庭を対象に新生児産婦訪問を実施。

#### ⑤ 妊娠子育てサポート事業

- ・保健師助産師の専門職による電話，訪問等支援の実施。

#### ⑥ 育児相談機能の強化（既存事業見直し）

- ・母と子の集い（柏市民健康づくり推進員による見守り支援として継続実施。）
- ・8か月児相談事業の試行実施。乳児期の支援充実を図る。（専門相談対応の機会充実。）

### 【平成30年度の主な取組予定】

#### ① 妊娠子育て相談センターの充実

- ・駅前拠点の拡充。
- ・市役所母子保健コーナーに同センターを増設。

- ② 妊娠子育て応援プランの拡充
  - ・ハイリスク支援プラン作成。
- ③ 妊娠出産包括支援事業
  - ・ハイリスク妊婦へのグループ支援実施。
  - ・8か月児相談事業の実施。
- ④ 災害時の母子支援に関する啓発の強化。
  - ・啓発パンフレットによる啓発。

#### 質疑応答

- ・(佐藤委員) 母子健康手帳の交付場所を集約したが、利便性という点で市民から意見がでてきているか。
- ・(事務局) 苦情は入っていない。第2・第4土曜日に開所し、利便性も図っている。市内の産婦人科等で周知され、混乱なく利用いただいている。
- ・(足立委員) 柏の葉エリアに開設していく予定はあるか。2週間健診，1か月健診（産婦健診）への助成は検討しているか。母と子のつどいに、今後保健師は行かないのか。駅前拠点での沐浴指導や母乳指導について、対応できるのか。
- ・(事務局) 柏の葉エリアの整備は、他の公共施設の整備進捗とあわせて検討していく。2週間健診，1か月健診（産婦健診）は、メンタルのアセスメントが不可欠のため、産科医療機関の実施体制を確認し、検討を進めたい。母と子の集いは、年間3回程度、地域担当保健師を中心に専門職が出向き、子育て相談を予定。妊娠子育てサポートセンターでも、子育て期の相談を十分に対応していきたい。また育児相談拠点として、子育て支援課で「はぐはぐ若柴」を、青少年センターに開設した。連携し全市的な子育て支援体制を作っていきたい。沐浴指導は、産婦人科の母親学級受講や市のママパパ学級受講を勧める、電子親子手帳の動画配信を案内する等で支援。授乳指導は、開業助産師利用を案内、妊娠子育てサポート訪問事業による個別訪問等で支援。また、妊娠子育て相談センターでは、家族（祖母など）の育児相談にも、対応出来ると良い。

- ・（鈴木委員） 8 か月児相談事業は，希望制か。
- ・（事務局）全数通知で実施予定。平成 29 年 1 1 月の試行実施では，離乳食や歯磨きの相談が多かった印象。
- ・（菊池委員）研修体勢，マンパワーはどうか。啓発活動と専門性の担保はどうか。
- ・（事務局）内部研修やケース検討会，事例検討の実施，外部研修受講等の体制を整えている。マンパワー確保も推進したい。啓発は，子育て支援課等との連携を進めていく。

#### ウ 関係機関における取組について

- ① 柏市民健康づくり推進員連絡協議会：自治会，小中学校，柏市医師会，柏市歯科医師会と連携。推進員の赤ちゃん訪問実績は 2 5 5 5 件。地域健康講座も実施。市内小中学校の思春期保健にも関わっている。
- ② 柏市小中学校校長会：幼稚園，保育園，子ども園等と連携。特に学校医と連携した指導等が大きい。アレルギーのことで内科医師，口腔衛生のことで歯科医師と連携。子どもの口の中は，家庭環境が見えてくる。トラブルを防ぎ，子どもの健康面被害防止を期待。思春期保健は P T A 活動，保健指導で実施。学校保健年間計画があるが形骸化を懸念している。保護者，児童，職員向けの計画が必要。

#### エ 関係課における取組について

- ① 保健予防課：日曜日，平日の夜間に H I V 等抗体検査を実施しているが，10 代の受検者は少なく，性感染症罹患者は確認されなかった。2017 年，18 年で全国的な梅毒の流行が認められている。啓発活動と検査を強化させていく。
- ② 子育て支援課：情報提供では，子育てサイト「はぐはぐ柏」を運用。6 月からライン配信も実施。利用者支援事業，保育園，児童センターでも相談事業を実施。相談は，生活子育て環境，家庭，発達，病気，保育園幼稚園の入園に関することで約 6 割。
- ③ こども福祉課：家庭児童相談担当で子育て相談，虐待の相談

から対応，早期発見から早期支援を実施。虐待では，関係機関で情報共有し，連携支援する体制が整ってきた。産後ケア事業では宿泊型とデイサービス型を実施。児童虐待対応強化として，児童相談所長によるスーパーバイザー研修を実施。

- ④ 保育運営課：地域子育て支援も重点に活動。妊娠期からの不安への対応も検討。28年度に母と子のつどいで参加者アンケート実施。つどい卒業後の1歳半から保育園入園まで，行き場がないことが把握された。ママ友達間の情報交換，ふれあいスペースを作れるよう努力している。子育て家庭を対象とした「なかよし広場」も，より身近な存在となるよう，保育園の園庭やプレイルームで実施する等工夫。
- ⑤ こども発達センター：センターで療育相談，保育園や幼稚園への巡回指導を実施。民間療育機関との連携も実施。
- ⑥ 学校保健課：保健体育の授業を中心に性教育，命の教育，薬物乱用防止教育，がん教育などの健康教育を実施。性教育は，保健主事，養護教諭が中心となり，助産師，産婦人科の先生等と連携。薬物乱用防止教育は，薬剤師会，保健所，警察署，少年補導センターの専門機関と連携し薬物乱用防止教室や保健体育の授業を中心に薬物や医薬品に対する正しい知識，薬物乱用防止を意識付けしている。学校現場が抱える課題ニーズ等を共有し，現場と連携して推進したい。学校給食は，給食を生きた教材として，適切な摂取量等の指導に活かす。

#### 質疑応答

- ・（中矢委員）難病等罹患の際の相談はどうすべきか。
- ・（事務局）小児慢性特定疾病という医療費助成対象となる。保護者様の所得に応じて自己負担が決められる。
- ・（足立委員）待機児童がゼロとは。
- ・（子育て支援課）4月1日時点の国基準（複数の希望園なかで，ひとつも入園できない場合は待機。）で3年連続，4月1日時点では待機児童0である。3月末にかけ，待機児童は増加する。

- ・(菊池委員) 関係機関，関係課の報告，進捗管理を行う時間はあるか。
- ・(事務局) 審議会，会議等で報告させていただいている。
- ・(菊池委員) 継続的にぜひ行っていただきたい。
- ・(佐藤委員) 学校保健年間計画立案では，学校の課題を吸い上げる仕組みはあるか。
- ・(学校保健課) 養護教諭研修会や保健主事研修会で情報交換し，教育委員会として把握している。
- ・(佐藤委員) 保健予防課でも市内サポート校への健康講座の実施が報告されていた。連携はどのようになっているか。また性教育は実施率はどのようになっているか。
- ・(保健予防課) 保健所と教育機関との連携は，今後拡充の余地がある。
- ・(学校保健課) 各学校ごとに，保健師や助産師や産婦人科の講習会等の授業を実施している。
- ・(足立委員) 柏市は，思春期関係者会議を実施し，情報交換等を行っている。助産師も学校現場で性教育を実施し，思春期関係者会議でも報告してる。
- ・(事務局) 思春期担当者会議で，助産師会，柏市医師会，学校保健課，様々な思春期に関わる職員で，取り組み，課題を話し合っている。